



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週 報

2014～2015年度 RI会長 ゲイリー C. K. ホアン
RIテーマ ロータリーに輝きを

クラブテーマ「感謝の心で出席しよう」会長 矢岸貞夫

副会長 鈴木政則 幹事 小林 勝

第1200回 例会 2014.9. 26(金)晴

司会:小島 真君 指揮:岡 良森君
ロータリーソング「それでこそロータリー」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 ブケ東海三島
TEL.055-984-0120
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 矢岸貞夫君

本日の卓話は、山田定男さんです。本来10月3日の予定でしたが、特別卓話で三島警察署東原署長様が見えるので、予定を変更しまして今日にしてみました。

10月は、職業奉仕月間です、職業奉仕について調べてみました。

職業奉仕とは、あらゆる職業に携わる中で、奉仕の理想を生かしていくことをロータリーが育成、支援する方法である。職業奉仕の理想に込められているものは次のものである。

- 1) ・あらゆる職業において最も高度の道徳的水準を守り、推進すること。そのなかには、雇主、従業員、同僚への誠実さ、忠実さ、また、この人たちや同業者、一般の人々、職業上の知己全ての公正な取り扱いも含まれる。
- 2) 自己の職業またはロータリアンの携わる職業のみならず、あらゆる有用な職業の社会に対する価値を認めること。
- 3) ・自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てること

職業奉仕は、ロータリー・クラブとクラブ会員両方の責務である。クラブの役割は、模範となる実例を示すことによって、また、クラブ会員が自己の職業上の手腕を発揮できるようなプロジェクトを開発することによって、目標を実践、奨励することである。クラブ会員の役割は、ロータリーの原則に沿って自らと自分の職業を律し、併せてクラブ・プロジェクトに伝えることである、と掲げてあります。

この後、山田さんの卓話で職業奉仕の話があると思いますので、宜しくお願いいたします。

出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	31/32	96.88%	31/32	96.88%
今回	23/32	71.88%	会員総数	34名
欠席者 あなたが見えなくて残念でした。				

遠藤君、太田君、大房君、杉山(順)君、杉山(隆)君、中山君
服部君、宮澤君、山本君

おめでとう

会員誕生日	9月27日	米山晴敏君
	10月1日	土屋 巧君
入会記念日	9月28日	兵藤弘昭君

今日の料理



幹事報告

幹事 小林 勝君

1. 地区大会が11月15・16日に浜松にて開催されます。出席義務者の方には後ほどお願いいたしますので、ご協力よろしくお願いいたします。

ようこそせせらぎ三島
ロータリークラブへ

内田憲一さん(矢岸君・米山君のゲスト)
勝又佳員さん(小林君・米山君のゲスト)

世間では景気が良くなったと言われていますが、せせらぎ三島RCの皆様、いかがですか！！

奉仕団体でありますロータリークラブは、職業奉仕を第一にかかっている団体です。

さて、私は大手自動車メーカーの下請けで部品の加工を行っています。趣味として漁師の真似事で船釣りをします。最近は海流異変で魚が獲れません。原因は例年より黒潮がきつく3℃位水温が高くなっているからです。気象庁発表の天気図を見ても現れています。

話をかえます。経済天気図を想像しましょう。そして、その天気図を元に会社方針計画を策定すると良いと思い、私は今策定中です。結果うまくいくと今後も職業奉仕を続けられます。頑張ります。皆様をお願いしてあります職業奉仕レポートのまとめをして下さい。

PHOTO GALLERY



米山晴敏君：明日誕生日です。64歳になりました。これからもよろしくお願いします。

山田定男君：本日卓話です。宜しくお願い致します。

中村 徹君：先日、兵藤さんとNPO法人グランドワーク三島に行きました。8月31日に行われたロータリーデーと銘打った家族会のビデオ作製について色々ご協力をいただきました。グランドワーク三島ではミシマバイカモが群生する三島梅花藻の里に隣接する遊水池が富士市の不動産業者に転売され、宅地造成されることになり、梅花藻の里の全滅が現実となってきました。会員の皆さんにはグランドワーク三島の募金および、署名運動にご協力、よろしくお願いいたします。

仲原圭圭君：早退します。すみません。

ROTARY NEWS

ガーナの村にきれいな水を

「5歳未満の子供たちの5人に一人が汚染された水を飲んで死亡している」。これが世界の現実です。しかも飲み水を汲みに行くために、毎年世界で約400億時間が費やされ、その作業は主に女性と子供たちが担っています。

アフリカのガーナでは、人口の20パーセントに当たる約500万人が、汚染された水を使っていると推定され、その結果、多くの人びとがさまざまな病気の危険にさらされています。

ロータリー会員、マーティー・ハタラさん(米国アラバマ州、ボアズ・ロータリークラブ)は、2010年に初めてガーナを訪れ、孤児院でボランティア活動に参加した時、地域の人びとがきれいな水を求めて苦勞している様子を目の当たりにしました。「場合によっては、11キロも歩いて水を汲みに行かなければならなかった」と振り返ります。

ハタラさんのこの経験について知り、ボアズ・ロータリークラブと、同じ州にあるアラバスターペラム・ロータリークラブの会員が立ち上がりました。ロータリー会員たちはガーナのボルタ地域の村、アフラオで、飲み水用の井戸を掘り、村人が長い時間をかけずに、近くできれいな水を汲めるようにしたのです。これで、村の母親と子供たちが水汲みに苦勞する必要がなくなりました。

ハタラさんはその後、地元の人に別の地域に案内してもらいました。アフラオと違い、その地域には地表に水源がありました。ロータリー会員たちは、その水源から9つの村まで送水管を敷き、市場、寄宿舍、学校、養鶏場など主要な施設で水が使えるようにしました。ハタラさんはその際、水道と下水管理の専門家、アラバスターペラム・クラブのクレイグ・ソレンセンさんの力を借り、地元の人びとにもこのプロジェクトの進行状態を常に知らせ、実際に参加してもらいました。当初6つの村まで敷くはずだった送水管を9つの村に延長できたのも、地域のリーダーの紹介で、地元の労働力を確保できたからです。このプロジェクトは去る3月に完了しました。